

税金の徴収体制強化

4月18日、市は市税等の徴収体制の強化を図るため、兵庫県から徴収の専門知識を持つ「個人住民税等整理回収チーム」を受け入れました。

今後、県職員と合同で、市税等の滞納者に対して、財産調査などを行い、財産の差押えを積極的にを行います。差押えた財産は、現金に換えて滞納市税などに充てられます。

滞納している人は早急に納付いただくか、特段の事情などにより税金を納められない人は、早めに税務課に相談ください。

災害に備えて8事業所と協定

市と市内でスーパーやホームセンター、薬局を運営する8事業所は3月25日、市役所本庁舎で「災害時における物資供給等の支援に関する協定」の調印式を行いました。

この協定は、大規模災害が発生した時に、食料や医薬品、生活に必要な物を市民に迅速に供給することを目的に締結されたものです。

これにより、各事業所は市内に持つ15店舗から、市の要請に応じて必要な物資を提供し、費用は市が負担します。



協定締結後に硬い握手を交わす市長と各事業所の代表者



5人の職員に辞令が交付されました

兵庫県から派遣職員

青倉駅の開設

明治39年当初、新井く和田山間では竹田駅のみでした。旧中川村の人たちにとつて、新井く竹田間(8 越)に、もう一つ駅ができることは永年の念願でした。敷地の無償提供や開設費の一部負担など、何とか駅ができないかと運動が続けられていました。そして、開業から28年後の昭和9年(1934)8月10日、ようやく待望の青倉駅が開設されたとき、地元は大きな感動に包まれたようです。この間の事情について、地元の方の話が『朝来町史下巻』に記載されていますので、紹介します。

「中川村に駅を一つつけた」ということは中川村民の切実な願いでした。運動もいっしょうけんめいに行いました。何とか駅をつけてもらいたい」と、陳情をさかんにやったり、鉄道の役員連中を呼んできて、接待をして頼んだりしました。(略)旧中川村は労力をかけて運動をしましたが、労力だけではなしに、費用の負担も大きかった。いちばん大きかったのは敷地の買上げです。青倉駅の敷地は二反以上あると思いますが、その当時は田一反が350く360円していました。この土地を鉄道に無償提供するので、この民有地を中川村が買上げなければなりません。費用のことならいろいろとありますから、青倉神社からも出してもらいました。「青倉」という駅名は全国的に眼病治療で信仰を集めてお詣りも多有名であるし、それに青倉神社から金も出してもらうことでもあるし、というので付けられたものです。(略)青倉駅の落成式当日は、大変でした。どの部落からも趣向をこらした青年の練りこみがありました。屋台をくり出して、青倉駅の広場に集まっています。素人芸居や踊りをやっていました。(略)祝宴は、物部八幡社の鳥井場でありました。大げやきの涼しい日か

げがよいということでもそこになったのです。お世話になった鉄道の方もみな見えていました。祝宴はいつまでも賑やかに続いています。

(市教育委員会社会教育課)